

【使徒の働き 21 章】

「主イエスの御名のためなら、エルサレムでしばられることばかりでなく
死ぬことさえも覚悟しています。」
(使徒 21:13)

ミレトで別れのメッセージをして、エルサレムへの旅路に着くパウロは、ツロヤカイザリアで、パウロを心配して、エルサレムへは行かないようにと反対されますが、「なぜ泣くのか。わたしをくじくのはやめてくれ。」と死ぬことを覚悟している事を告白します。彼らは、「み心のままに。」と送り出しました。目的地エルサレムにつくと、兄弟たちは喜んで迎えました。既にエルサレム教会には、ペテロやヨハネはいません。ヤコブを訪問しましたが、そこには長老たちや大勢の人が集まっていました。そこでパウロは、異邦人における神の恵みとみわざを証し、報告しました。エルサレム会議以降、異邦人伝道における成果を見聞きした彼らは、神のみ名をほめ称えました。そこまではよかったのですが、長老たちは、パウロに関する様々な噂を聞いていたので、この機会にそれらが真実ではないことを明らかにしたいと、パウロにユダヤ人の誓願に参加し、頭をそる費用を出すことをすすめました。人間的な方法で、誤解を解く必要は無いと思ったかもしれませんが、パウロは、I コリント 9:20 にあるように、「より多くの人を獲得する為に、ユダヤ人にはユダヤ人のようになり～」と言っていますから、そのような心境だったのでしょうか？ともかくこの申し出に賛成しています。ところがユダヤ人の指導者たちは、パウロが神聖な宮を汚したと言う理由で、大騒動になって殺そうとしました。ローマ軍(異邦人)によって助けられますが、パウロは予告されていた通り、逮捕され裁判にかけられます。それがきっかけで、ローマ行きが実現することになりました。「ローマもみなければならぬ！」使徒9:21の聖霊様による幻が、このエルサレムに来たことによって、実現されていきます。人間的には、誰しもが反対したエルサレム行き、彼自身もなわめと苦しみが待っていると知っていたエルサレム行きを実行することで、神様のご計画は着々と実現されていくのです。人知をはるかに超えたキリストの愛は、飛行機で豪華客船で伝道旅行して全うされたのではないのです。何と囚人として、生きるか死ぬか分からない船旅によって遭難しながら成就されていきました。キリストという愛の鎖につながれているしもべパウロ(いと小さきもの)のこの様ないのちをかけた世界伝道がなければ、今私たちも福音にあずかってはいません。



SHIROAM (遣わされた者)

2011. 6.19 No.636

神が遣わした者を信じる事、それが神のわざです。
ヨハネ 6:29

TLCCC FRH 教会週報

(天に登録されている長子たちの教会)

主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

天に登録されている長子たちの教会(FRH)

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師: イエス・キリスト

Tel&Fax: 048-689-048

皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意ください。
教会内での紛失や盗難等につきましては、一切責任を負いません。